

用語解説

用 語	解 説
あ ACT(Assertive Community Treatment : 包括的地域生活支援プログラム)	<p>重い精神障害がある人の中で、入退院を繰り返す患者や通院を中断した患者など、既存の医療サービスや福祉サービスのみでは安定した地域生活を送ることができない患者に対し、医療面での支援を行う医師や看護師、生活面での支援を行う精神保健福祉士、作業療法士などで構成する多職種チームにより、医療、保健、福祉、生活支援などの包括的な支援を行うこと。</p>
い 一般会計負担金	<p>病院事業等の公営企業は独立採算が原則であるが、その性質上病院経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費(保健衛生行政事務に要する経費など)や能率的な経営を行ってもなおその経営に伴う収入のみをもって充てることが困難な経費(高度医療に要する経費など)を地方公営企業法に基づき地方公共団体の一般会計が負担する金額のこと。</p>
医師主導治験	<p>医師自らが、実施医療機関と協力しながら治験のすべての業務の実施並びに統括をする治験。</p> <p>外国で承認されていながら国内未承認、あるいは適応外使用が一般的となっている医薬品や医療機器について医師主導治験を実施することにより、その医薬品や医療機器の薬事承認を取得し、臨床の現場で適切に使えるようにすることが可能となる。</p> <p>2003年に薬事法が改正され、製薬企業等と同様に医師自ら治験を企画・立案し、治験計画届を提出して治験を実施できるようになった。</p>
医療観察法	<p>心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(心神喪失者等医療観察法)を指す。</p> <p>重大な他害行為を行い、地方裁判所から入院決定を受けた精神障害者に対し、国が指定した医療機関において円滑な社会復帰を促すことを目的としている。</p>
インシデント(incident)	<p>誤った医療行為などが患者に実施される前に発見できた事例、または誤った医療行為などが実施されたが結果として患者に影響を及ぼさずに済んだ事例をいう。</p> <p>ヒヤリ・ハットとも呼ばれる。</p>

	用語	解説
え	ADD(Attention Deficit Disorder: 注意欠陥障害)	目の前の課題に集中して取り組むことができず、興味があちこちに移ってしまう、人から頼まれたことでも、ついうっかり忘れてしまうといった不注意さがみられる症状の障害。 不注意のみが見られる場合を ADD、多動性や衝動性も見られる場合は ADHD と称されている。
	SPD(Supply Processing & Distribution: 物流管理システム)	物品の供給、在庫、加工などの物流管理を中央化及び外注化することにより、診療現場の物品を柔軟かつ円滑に管理する方法のこと。
	NICU(Neonatal Intensive Care Unit: 新生児特定集中治療室)	未熟児を含めたハイリスク新生児を対象とし、呼吸管理、各種管理装置を用いた観察や生存率を高めるために集中的に治療を行う特殊な施設のこと。
	エビデンス(evidence)	効果があることを示す証拠や検証結果・臨床結果のこと。 医療行為において治療法を選択する際「確率的な情報」として、安全で効果のある治療方法を選ぶ際に指針として利用される。
	MSW(Medical Social Worker: 医療ソーシャルワーカー)	病院等において、社会福祉の立場から患者の抱える経済的、心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る者のこと。
	エレネック(ELNEC)	エンド・オブ・ライフ・ケア(EOL ケア)や緩和ケア*を提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的な教育プログラム。 エンド・オブ・ライフ・ケアとは、病気や老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケアを指す。 エレネック J コアカリキュラムはエレネックの日本語版教育プログラムのこと。
か	外来化学療法	外来診療で、抗がん剤などを用いて、がん治療を行うこと。 抗がん剤の進歩により副作用が少なくなり、入院せずに外来で治療することが可能な場合が多くなってきていることから、この療法により日常生活等への支障が少なくなってきている。
	がんゲノム医療拠点病院	がんゲノム医療のための遺伝子パネル検査の医学的解釈を自施設で行うことができると国が認めた病院のこと。

	用語	解説
か	がんサバイバーシップ(cancer survivorship)	がんの診断を受けた人々(がんサバイバー)がその後の生活で抱える身体的・心理的・社会的な様々な課題を、社会全体が協力して乗り越えていくという概念
	がん診療連携拠点病院	<p>全国どこに住んでいても均しく高度ながん医療を受けることができるよう、緩和ケアチーム、相談支援センターの設置等が義務付けられた厚生労働大臣が指定する病院のこと。</p> <p>都道府県に概ね1か所指定される都道府県がん診療連携拠点病院(本県ではがんセンター)と2次医療圏に1か所程度指定される地域がん診療連携拠点病院(がんセンターが名古屋医療圏で指定されている)があり、令和4年4月現在で18病院が指定されている。</p> <p>また、愛知県のがん診療の充実を図るために、県独自の「愛知県がん診療拠点病院」として愛知県知事が指定する制度があり、令和4年4月現在で9病院が指定されている。</p>
	緩和ケア	がんと診断された時からがんの治療と並行して、患者やその家族等の身体的及び精神的な苦痛に対する生活面のケア、精神面のケアなどを行い、いつまでもその人らしく生きていくことができるようサポートすること。
き	逆紹介	病院において急性期の病状の治療を終えたが、なお、継続的な治療が必要な患者を病院から地域の診療所等に紹介すること。
く	クリニカルパス(clinical pathways)	<p>患者の診療の計画を、横軸に時間、縦軸に診療項目をとって整理したスケジュール表のこと。</p> <p>医療チームのメンバーが診療経過を共通理解することにより、医療の質や安全性の向上、効率化が図れるほか、患者への情報開示のツールとして利用できる。</p> <p>(クリティカルパスと同じ)</p>
	クロザピン(Clozapine)	<p>抗精神病薬の一つで、治療抵抗性の統合失調症に対して、効果があることが認められた薬剤。</p> <p>無顆粒球症や白血球減少症などの血球に対する副作用、心筋炎や心筋症など心臓に対する副作用があるとされ、治療に当たっては定期的な血球数等の検査が義務付けられている。</p>

	用語	解説
け	ゲノム医療	<p>ゲノムとは、遺伝子に含まれる遺伝情報全体を指す。</p> <p>ゲノム情報は体をつくるための、いわば設計図のようなもので、それらを網羅的に調べ、その結果をもとにして、より効率的・効果的に病気の診断と治療などを行うこと。</p>
こ	個別化・適正医療	<p>疾患の生物学的性質に応じた治療を行うこと。</p> <p>最近では、個々の腫瘍の性質を遺伝子レベルで検索し、個々の遺伝子異常に応じた薬剤を選択する治療が試みられており、精密医療(precision medicine)とも呼ばれている。</p>
さ	サルコーマ(sarcoma: 肉腫)	<p>全身の骨や軟部組織(脂肪、筋肉、神経など)から発生する悪性腫瘍の総称。</p> <p>発生頻度は極めて低いが、若年者から高齢者まで幅広い年齢層で、全身のさまざまな部位・組織から発生する。</p> <p>症状や必要とされる治療、治療効果もそれぞれ異なることから、専門の医療機関での治療が必要とされる。</p>
し	CRC(Clinical Research Coordinator: 治験*コーディネーター)	<p>医療機関において、治験責任医師・分担医師の指示のもとに、医学的判断を伴わない業務や、治験に関わる事務的業務、業務を行うチーム内の調整等、治験*業務全般をサポートする。</p>
	受託研究	<p>新医薬品等の開発の過程において、ヒトを対象として医薬品等の有効性と安全性を確かめるために行われる治験*研究や、新しい治療方法等について、その安全性と有効性を確認するために行われる研究のこと。</p> <p>効果及び安全性が確認された後、一般的な治療方法として確立される。</p>
	紹介率	<p>病院を受診した初診患者に占める他の医療機関等からの紹介患者(救急車により搬送された患者を含む)の割合のこと。</p>
	診療材料	<p>ペースメーカー等の手術用材料、検査用材料、注射器、ガーゼ等、診療に用いられる材料のこと。</p>
	診療報酬	<p>医療機関がその提供する医療サービスに対する対価として請求する金銭のこと。</p> <p>保険診療においては、診療報酬点数表により個々の診療行為の額が定められている。</p>

	用語	解説
せ	精神科救急医療システム	夜間休日における精神科の救急医療に対応するための精神科救急医療体制のこと。
	セカンドオピニオン(second opinion)	患者が治療方法を選択するうえで参考にするため、最初に診察を受けた医師とは別の医師の診察を受け、治療方法についての意見を聞くこと。
	専門看護師	複雑で解決困難な看護問題を持つ者に対し、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための特定の専門看護分野の知識・技能を深めた者として日本看護協会の審査に合格した看護師。 令和4年2月現在、がん看護、小児看護など14の専門看護分野がある。
そ	総合がんセンター	臨床現場である病院への橋渡し研究を推進することで、最先端のがん医療を提供するがんセンターのこと。
ち	地域連携クリニカルパス	クリニカルパス*を、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるもの。 診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者が安心して医療を受けることができる。 (地域連携クリティカルパスと同じ)
	治験	医薬品・医療機器の承認申請を目的とした臨床試験で、医薬品・医療機器法等の法律を遵守して実施される。治験には、企業が主導で実施する企業主導治験と医師が自ら実施する医師主導治験が存在する。
	地方公営企業法の「全部適用」	病院事業に適用されている地方公営企業法に関して、法律上当然に適用される「財務に関する規定」のみを適用することを「一部適用」というのに対して、任意適用とされている「組織に関する規定」、「職員の身分取扱に関する規定」を条例で定めることにより適用すること。
	地方独立行政法人	地方独立行政法人法の規定に基づき地方公共団体が設立する法人のこと。 地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に実施させることを目的とする。
て	DPC(Diagnosis Procedure Combination:診断群分類別包括制度)	入院期間中の傷病名と、処置、化学療法などの診療行為の組合せによる分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度のこと。 この制度の導入により、過剰な検査の排除や入院日数の短縮化、後発医薬品の利用が見込まれ、結果として医療費が抑制されることが期待されている。

	用語	解説
と	特定機能病院	医療施設機能の体系化の一環として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えているとして、厚生労働大臣が個別に承認した病院のこと。 2022年12月現在、全国で大学病院を始め88病院が指定されている。
	トランスレーショナル・リサーチ(translation research)	新しい医療を開発するための臨床に繋がる研究のこと。 基礎と臨床とをつなぐ「橋渡し研究」とも言われる。
に	2次医療圏	原則として、1次医療(通院医療)から2次医療(入院医療)までを包括的、継続的に提供し、一般及び療養の病床の整備を図るための地域単位として設定する区域のこと。 愛知県においては、11の医療圏に区分されている。
	認定看護師	特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者として日本看護協会の認定審査に合格した看護師。 令和4年4月現在、乳がん看護、緩和ケア*看護、精神科訪問看護、小児救急看護など21の旧認定看護分野と、19の新認定看護分野がある。
は	PALS プロバイダー(Pediatric Advanced Life Support: 小児二次救命処置法)	小児二次救命処置提供者の知識と技術を持ったものに与えられる資格。 心停止を未然に防ぐ介入から心停止後の二次救命処置までを幅広くカバーしている。
ひ	ピア・サポート(peer support)	同じような立場の人によるサポートといった意で用いられる言葉であり、がんにおいては、がん体験者ががんに向かう患者やその家族に寄り添い、自らの体験を通して相談者の抱えている不安や悩みを軽減、解消するための活動や相談員のこと。
	PICU(Pediatric Intensive Care Unit: 小児集中治療室)	小児の大げがや、緊急を要する疾患に対応できる設備と医療スタッフを備えた集中治療室のこと。
	PDD(Pervasive Developmental Disorders: 広汎性発達障害)	社会的コミュニケーションの障害とこだわりを特徴とする心理的発達障害の包括的概念のこと。 この包括的概念には自閉症、アスペルガー症候群などが含まれる。自閉スペクトラム症(ASD)と同じ意味で用いられる。

	用語	解説
ひ	ヒヤリ・ハット事例	日常診療の現場で、“ヒヤリ”としたり、“ハッ”とした経験を有する事例で、医療事故(患者に濃厚な処置・治療を要した、またはそれを上回る影響を患者に与えたもの)には至らなかったもの。
	病床利用率	病床が平均的にどのくらい利用されているかを、病床数に対する在院患者数の割合で算出する率のこと。
	病診連携	病院と診療所が連携して患者の診療にあたる地域医療連携の一つの形態のこと。 一般的には、かかりつけ医がより専門的な検査や治療が必要と判断したときに、高度な設備が整い専門医のいる病院に患者を紹介する。
ふ	フェロー(fellow)	小児保健医療総合センターでは、後期臨床研修医または小児医療の専門的領域を向上するために学ぶため勤務している医師をフェローと呼んでいる。
へ	平均在院日数	患者が入院してから退院するまでの期間の平均値のこと。 在院患者延数 / ((新入院患者数+退院患者数)/2)
	へき地医療拠点病院	無医地区の住民に対して巡回診療、医師等の派遣などを行う、都道府県知事が指定する病院のこと。
	ベンチマーク分析	他病院の医薬品等の購入価格の平均値、最安値、購入量との関係分布などを基準(ベンチマーク)として、自病院の購入価格を分析すること。
り	リサーチレジデント(research resident)	がんセンター研究所において研究業務を通じ、がんに関する専門的知識及び技術を修得することを目的とする研修医のこと。 本県では平成13年度よりリサーチレジデント制度を採用している。
	リニアック(linac)	エックス線や電子線などの放射線を当てて、がんなどの治療をする放射線治療装置のこと。

	用語	解説
リ	臨床研究中核病院	<p>日本発の革新的医薬品・医療機器等の開発を推進するため、国際水準の臨床研究等の中心的役割を担う病院として医療法上に位置づけられた病院。</p> <p>「臨床研究中核病院」の名称を掲げることで、国際水準の臨床研究等の中心的役割を担う病院として認知され、より質の高い最先端の臨床研究・治験*が実施できるため、疾病に対する新たな治療方法、診断方法及び予防方法の開発や改善並びにそのスピードアップが期待される。</p>
	臨床研修指導医	<p>医師免許取得後の臨床経験が7年以上の者で、かつ厚生労働省の定める要件を満たした指導医講習会を受講済である者。</p> <p>研修の進捗状況把握と指導(レポートの提出と研修医手帳の記入指導を含む。)、研修医の健康状況観察、研修医と周囲のスタッフとの人間関係調整、研修意欲の啓発等、円滑な研修がなされるよう関係するすべての事項に広範な責任を負う。</p>
れ	レジデント(resident：研修医)	<p>本県県立病院では、初期臨床研修(通常2年間)を終えた後の専門領域の研修を行う後期臨床研修医(通常3年目以降)を指す。</p>
	レスパイト(respite)入院	<p>在宅療養をしている患者等が、その家族など介護者の休息(レスパイト)のため、一時的に医療機関へ入院すること。</p>